

1 はじめに

2 平成の時代が終わり、新しい時代の幕開けとなる本年、我々が住まう胆江地区においても大きなグロー  
3 バル化の中、社会の均質化の波に晒され、人口減少、少子高齢化の加速、地域コミュニティの衰退等、解  
4 決すべき問題は山積しております。しかし我々は現状をしっかりと受け止めつつ、高い志をもって、変革  
5 の能動者である青年会議所会員として、青年経済人として、地域のリーダーとして、関わる全ての方に礼  
6 を尽くし、大局観を具え、今やるべきことを見極め、率先して行動していかなくてはなりません。

7 水沢青年会議所は1963年、日本で229番目に創立され、以来56年間の歴史を歩んでまいりました。  
8 社会情勢が大きく変化する中、その時々時代のニーズに応じた幾多の素晴らしい運動を英知と勇  
9 気と情熱をもって展開され、この地域の礎を築いてこられた諸先輩方に深く敬意を表し感謝申し上げます。  
10 見返りを求めず行動する「利他の精神」、そして「個人の修練・社会への奉仕・世界との友情」の三  
11 信条を胸に刻み、時代の先駆者であった諸先輩方のその熱い想いと行動力を受け継ぎ、これからも着実  
12 に歩み続け、次世代に繋げていかなければならないと感じております。

13

14 **【2019年度スローガン】**

15 継往開来（けいおうかいらい）

16 ～礼を尽くし、笑顔溢れる未来を切り開く～

17

18 **【基本理念】**

19 大局観を具え、今やるべきことを見極め、率先して行動をする

20

21 我々が最も大切にしなければならない事は何か。「志」を引き継ぎ、笑顔で未来を切り開いていくこと  
22 であります。笑顔は計り知れない力を秘めており、緊張を緩和し、親密さを生み出すばかりでなく、笑顔  
23 が笑顔を生み、幸せを連鎖させ、不安や困難を乗り切る力を与えてくれます。我々の未来に繋がる確かな  
24 運動が、笑顔と共に地域に広がり、共感呼び起こすのです。「明るい豊かな社会の実現」を理念に掲げ、  
25 連綿と時代を築き上げてこられた先輩方に敬意を表し、青年会議所運動が出来ることに感謝しながら、  
26 多面的・複眼的に物事の本質を捉え、目先の事だけではなく長期で先を見通し、この胆江地区の明るい未  
27 来を笑顔と共に切り開いてまいりましょう。

28

29 **【基本方針】**

30

- 31 ・人口減少に向けた確かな一歩
- 32 ・次世代を担う子どもたちの育成
- 33 ・青年会議所運動を広める会員拡大
- 34 ・青年会議所運動を広める積極的かつ効果的な情報発信
- 35 ・将来を見据えた堅実な法人運営

36

37

38

39 **・人口減少に向けた確かな一歩**

40 我々が住まう胆江地区は、風光明媚な自然があり、他にはない歴史的風土、魅力的な地域資源、東北各  
41 地を3時間以内で結ぶ交通の利便性等、多く恵まれたものがあるにもかかわらず、全国的な少子高齢化  
42 の流れは大きく、2014年に民間有識者団体の日本創成会議より発表された消滅可能性都市のリスト  
43 にピックアップされ、人口減少と過疎化は年々進み、地方の衰退は一層深刻化しています。国立社会保  
44 障・人口問題研究所によると、奥州市は年々人口が減り続け、2060年の40年後には総人口が現在の  
45 約半分、6万2千人になると予測されています。しかし、悲観している場合ではありません。我々は青年  
46 会議所らしく人口が減っていく中で地域の人々がいかに生き生きと心豊かな暮らしが出来るかを考え、  
47 それに向けた確かな一歩を踏み続け、地域の明るい豊かな社会に繋げてまいります。

48

49 **・次世代を担う子どもたちの育成**

50 次世代を担う子どもたちを育てることは、このまちの未来を担う人財を育てることでもあります。青少年  
51 期は、好奇心にあふれ、希望に満ち、失敗や挫折を繰り返しつつもそれらに屈することなく前向きに挑戦  
52 し続け、そうした試行錯誤の中で意欲を持って自立した社会人の基礎を作る大切な時期であります。も  
53 ちろん青少年の育成の主体は家庭であり、学校であります。近年の核家族化や学校教育にも限界があ  
54 り、それらの機能が十分に果たせておりません。我々は家庭・学校に次ぐ地域を代表する第三極である  
55 の自覚を持ち、地域の明るい未来を担う子どもたちが健やかに力強く成長することを後押しする。これ  
56 が我々青年会議所の果たす役割であると考えます。

57 現代の子どもたちの環境は、技術革新により情報端末を媒体とした間接体験が多くなっていることや、  
58 親の過保護や過干渉、地域コミュニティの衰退などにより、郷土の自然や文化と直接的に触れ合う機会  
59 や達成感、成功体験を得る機会、団体行動の重要性や自分を支えてくれている人へ感謝する機会などが  
60 少なくなっている現状があります。より多くの笑顔で溢れる時間を創出し、自然と触れ合うことの感動、  
61 仲間で行動することの楽しさ、チャレンジ精神の大切さを感じてもらえるよう、学びの場を1つでも多  
62 く提供し、生きる力を具え、笑顔溢れる人財を育成し、明るい豊かな社会に繋げてまいります。

63

64 **・青年会議所運動を広める会員拡大**

65 会員拡大とは、単に組織を維持するために行う活動ではありません。市民意識を変革することでより良  
66 い社会を実現するという青年会議所運動そのものであり、この地域の発展に貢献できる人財を増やして  
67 いくための活動でもあります。地域の事や子ども達の未来を真剣に考え本音で語り合うことのできる同  
68 士が1人より10人、10人より100人いた方が良いことは明白であります。また、会員数が増えるこ  
69 とはより多くの会員との出会いの機会となり、多種多様な価値観を持った会員同士が切磋琢磨すること  
70 で自己成長の機会も増え、組織としての成長にもつながります。拡大を成功に導くために、まずは我々一  
71 人ひとりが襟を正し、礼を尽くし、美しい立ち居振る舞いをする。その上で青年会議所の基本的な知識を  
72 具え、発信する運動や事業の根底にある理念を理解すると同時に、その運動や事業を通して地域にどの  
73 ような効果をもたらし、自己がどのように成長するのかなど、青年会議所の魅力や楽しさ、共に運動を展  
74 開することの面白さを熱い情熱をもって自分の言葉で伝えられなくてはなりません。メンバーの資質向  
75 上と並行して会員拡大を推進し、我々の展開する運動をより広く地域に伝播してまいります。

76

## 77 ・青年会議所運動を広める積極的かつ効果的な情報発信

78 自らが住まう地域の明るい豊かな社会の為に活動している我々にとって、地域に住暮らす人々に認知  
79 され共感を得られる組織とならなければならないのは言うまでもありません。

80 我々は、多様化する情報取得手段に合わせ戦略的に理念や活動を広報し、青年会議所運動を地域に根強  
81 く浸透させる必要があります。しかし、高度な情報化社会になりつつある現在、ただ発信するだけでは伝  
82 わらず、情報の届け方まで考え、また、求められている情報を発信しなければ伝わらない時代となってお  
83 ります。受け取り手が必要としている情報と、各委員会がこれから挑戦していく次代へ繋がる取り組み  
84 を掲載した広報誌「築く」を発行し、新たに配布できる団体等も開拓しながら、多様化する情報社会に対  
85 応した戦略的広報活動を行い、我々の運動をより浸透させ、現在の地域における水沢青年会議所のブラ  
86 ンド力を高めてまいります。

87

## 88 ・将来を見据えた堅実な法人運営

89 水沢青年会議所は、2012年公益法人に移行してから、今年で8年目となり、これまで歴代理事  
90 長・専務理事を中心に運営されてきました。将来を見据え、現状に即し、**コンプライアンスを徹底した**  
91 組織の土台となる堅実な法人運営や組織運営、財務管理、各種会議運営等を明確にし、徹底していくこ  
92 とで円滑な組織運営に取り組んでまいります。各メンバーが組織の運営方法を共有し、会員全員が同じ  
93 方向にベクトルを合わせ、未来に向かって歩みを進めたとき、大きな力が生み出され、それが会の成長  
94 に繋がると確信します。

95

## 96 おわりに

97 我々は青年会議所に入会しない選択肢もあったかも知れませんが、この道を選んだ、地域ふるさと  
98 とを牽引する青年であるからこそ、これまでを受け継ぎ、発展させながら笑顔で未来を切り開いていか  
99 なければなりません。会社と家族を持ち、多忙な日々を過ごしている我々は不思議なもので、忙しい時期  
100 に青年会議所での大きな担いに直面するものです。理由を並べて断ることは誰にでもできますが、そこ  
101 に挑戦するのが我々であり、青年会議所でしか経験することの出来ない修練であります。限られた時間  
102 の中で仲間と共に様々な困難に立ち向かう。この修練こそが経験で、人生の財産になると私は確信しま  
103 す。

104 私は今まで青年会議所活動を続けた中で、最も心に刻まれている場面があります。それは、専務理事と  
105 して迎えた2017年度、水沢青年会議所が創立55周年を迎えた年、東北青年フォーラムin奥州の  
106 クロージング後、やり切った達成感で会員同士が泣き笑いあっていた場面であります。その年は本当に  
107 大変な一年でした。創立55周年記念式典に、創立55周年記念事業、ひとづくり・まちづくり事業に例  
108 年の各種大会、行事。会員全員が、歯を食いしばって、乗り越えた怒涛の毎日を振り返った時、達成感と  
109 充実感に溢れ、大の大人が感動の涙を惜しげもなく流し、泣き笑いあっていました。その経験が出来たの  
110 も、連綿と創始の精神を引き継ぎ、運動を展開してこられた諸先輩方の御蔭様でありますし、私に様々な  
111 機会を与えてくれた歴代理事長をはじめとするメンバーの御蔭様であります。水沢青年会議所のために  
112 ご尽力いただいた諸先輩方、携わっていただいたすべての皆様に感謝の気持ちを常に持ち、大切な仲間  
113 と共に「笑顔」でいっぱいの日を送れるよう、志を高く、地域、会、メンバーの為に全力で青年会議所  
114 運動をしてまいります。

- 115 地域にとって持続可能な解決策の一步となる一年になってほしい。
- 116 会にとって未来に繋がる一年になってほしい。
- 117 メンバーにとって一生を変える一年になってほしい。